

【晴嵐小学校六年生児童作品】 令和六年度

1、	ひまわりと皆の笑顔咲きほこる	長高	愛佳	3 2、	夏の夜すずしい風が吹きすさぶ	佐々木 魁斗
2、	すいかわりすいかじゃなくて兄たたく	村野	瑠南	3 3、	夏休みつめたい海に飛びこむぞ	朝井 章文
3、	夏の花太陽に向いてかがやいて	集治	葵	3 4、	夏休み花火大会きれいだな	吉田 樹
4、	夏休み一番あついパリ五輪	平田	佳輔	3 5、	バンバンと花火が空に消え咲かる	杉本 晴喜
5、	扇風機せつせと働く季節だな	宮谷	佳生	3 6、	外見ると入道雲のわたがし屋	大久保ちさと
6、	水しぶき思いきりはしゃぐ海と汗	木川	心結	3 7、	夏祭り少しやつれた半ズボン	大前 諒
7、	暑い時バスケの試合つらいかも	村上	裕俐	3 8、	日やけ止めぬりたくつても効果なし	林 結依花
8、	ふと耳をすましてみればセミの声	木村	環希	3 9、	宿題のたまったプリント風に飛ぶ	川崎 風穂
9、	夏まつりひっしににげる金魚たち	山根	ひより	4 0、	花火散る水面にうつる天の川	宇仁 あんり
10、	セミが鳴く空も自分も夏休み	坂田	薫音	4 1、	練習はうそをつかない水の上	目片 翼
11、	夏の夜天見上げれば流れ星	杉本	茉弥	4 2、	ウイルスも夏負けしたらいいのにな	大村 亮人
12、	夏が来る暑さじりじり外出れない	藤本	莞太	4 3、	甲子園レフト方向浜風が	川口 倅
13、	打ち上げ花火夢といっしょに咲きほこれ	五百蔵	路彦	4 4、	なやみごと花火とともにとけてゆく	金井 玖依
14、	風鈴がチリンと鳴った祖母の家	森	明日輝	4 5、	かき氷きらきら光るおいしいな	樋口 友南
15、	夏休みプールにはいりすずしまる	川上	剛輝	4 6、	積乱雲雷びかり大雨だ	樋口 友南
16、	盆休みせんぞにあいさつ墓参り	仁張	楓斗	4 7、	琵琶湖には花火の花粉が舞い落ちる	渡邊 孔彦
17、	真夏の日アイスがすぐに溶けていく	坂田	穂乃花	4 8、	夏休みプールに祭りまんきつだ	鍛冶 颯太
18、	梅雨明けはあじさい消える真夏日だ	加藤	愛生	4 9、	かき氷夏の季節の救世主	永山 明香里
19、	夏野菜太陽に当たり光ってる	山口	詩織	5 0、	甲子園夏の魔物が動き出す	藤井 康大
20、	かき氷しゃりしゃりしておいしいな	島山	拓巳	5 1、	甲子園熱いバトルがスタートだ	高間 湊人
21、	かき氷舌を見せ合い笑みはじけ	藤田	真衣	5 2、	夜の空花火打ちあげ花満開	高杉 新
22、	青空によせてはかえすなみの音	北井	彩夏	5 3、	夏休み友達と夜市たのしいな	荒川 蒼祐
23、	たくさんの思い出つまった夏休み	赤木	遥香	5 4、	空の上入道雲がうかんてる	角谷 叶翔
24、	夏休み友達と花火楽しいな	上阪	仁宗	5 5、	夏休みプールに行った暑かった	中田 有咲
25、	エアコンで地球の暑さが増すもう暑	目片	天寧	5 6、	えんぴつが途中でとまるせみの声	嵯峨根 実咲
26、	ひまわりが太陽あびてせいくらべ	森	遼太	5 7、	朝涼の鳥のさえずり騒がしい	安田 奏生
27、	かき氷いちごかメロンなやんでる	高橋	佑惟	5 8、	夏の夜家族みんなでウオーキング	大高 索
28、	相模川二つのあみで小鮎とり	古川	晃成	5 9、	夏祭り琵琶湖に映る花火かな	甲斐 大智
29、	夏祭り友達と行き楽しいな	沖中	舞香	6 0、	夜の花火きらきら美しい	田口 楓乃
30、	夏休みオーストラリアの空の旅	長石	皇牙	6 1、	夜の花火きらきら美しい	宮川 ななせ
31、	夏休み一人ぼっちのランドセル	竹内	皇牙	6 2、	大合唱夏を感じるセミの声	守屋 創麻
				6 3、	広島のレーザー光と散る花火	宗村 結芽
				6 4、	しつこい蚊何びきやれば学ぶかな	中西 佑太

65、 伊吹山空からのぞむ雲海よ
 66、 かき氷ひんやり体にしみわたる
 67、 夏休み夏祭り行きたいな
 68、 滝しぶきマイナスイオン感じてる
 69、 文月の終わり近づき秋が来る
 70、 川の中ぼくにあつまるイワナたち
 71、 ふぐ食べて腹も心もあたたまる
 72、 雲もない光かがやく夏の空
 73、 夏休みまだから見えるいいながめ
 74、 夏休み暑さにたえて練習だ
 75、 球児たち暑さの壁を乗り越える
 76、 かきごおりみんなまで食べよぼくメロン
 77、 夏花火幻住庵にもとどく音
 78、 入学式ゆれてむかえし桜の木
 79、 夏の空明るく光る夜星たち
 80、 家の前いつもなってるせみの声
 81、 夏の朝海辺で海風と陸風が吹き変わるとき
 82、 積乱雲わたあめみたい食べてみたい
 83、 風鈴は夏の音色涼しいな
 84、 夏の夜空に咲く花ひびく音
 85、 きれいだな光かがやく夏の空
 86、 日陰道残暑さえぎる休憩所
 87、 ひからびる麦茶をぐびつと生き返る
 88、 夏の海従兄弟といっしょに水遊び
 89、 夏の雨ザーザー降りの梅雨じき
 90、 雨のあと光るあじさい鳥の声
 91、 練習後冷めたい氷をかぶりたい
 92、 夏休み宿題終わらず夏のくい
 93、 長々とお祭りさわぎが続く夏
 94、 おこづかい減らしたくない夏祭り
 95、 夏の日のは野球の試合熱くなる
 96、 夏休みする事なくてひまだった
 97、 夏休み誰と一緒に遊ぼうか

大柳 律稀
 河井 優理子
 神農 星良
 桶師 望未
 神山 そら
 仲辻 琥太郎
 山本 泰平
 山本 龍之介
 矢部 遼平
 川畑 儀勝
 田中 隆哉
 吉田 陸
 山根 琉聖
 藤堂 愛唯
 浅居 隆仁
 中山 雄太郎
 エスピリッツイネイサベル
 住田 碧
 五藤 倭衣
 岡本 茉緒子
 長友 陽和
 村田 蒼右
 高畑 香帆
 松下 葵央
 塩田 湖春
 北村 芽依
 佐々木 翔太
 今井 海風
 稲垣 里沙
 大谷 敏加
 光成 尊
 初田 綾陽
 山内 綾太

98、 夏夜空美しい花咲きほこる
 99、 きれいだな夏の夜空の光る星
 100、 夏休み努力の実をさかすとき
 101、 夏の夜びわこに光るはながさく
 102、 金魚たち水そうの中フアッションショ
 103、 ゆかた着て髪がはさまるハンディファン
 104、 夏終わるセミの抜けがら思いはせ
 105、 怒られてゲームを止めてまた昼寝
 106、 さいているこつちを向いていまわりが
 107、 夏休み勉強いっぱい悲しいな
 108、 夏になり外から聞こえる蝉の声
 109、 夏祭り屋台選びにくせんする
 110、 夏祭り暑さに負けぬその笑顔
 111、 夏の空まぶしい日差し差している
 112、 扇風機押し入れしまいなつかしむ
 113、 朝すずしこのままがいいお願いだ
 114、 冬休み雪がふるな外遊び
 115、 夏祭り走ってこけてなみだでる
 116、 友人とあみをかた手に鮎をとる
 117、 ひまわりがそよ風にのりおどってる
 118、 土曜日に公園行って虫とりだ
 119、 暑い中祭りに行つて良い汗かく
 120、 ふと気づくせみの泣き声窓の外
 121、 甲子園夏のせん風まき起こす
 122、 存在は巨人のようなカブトムシ
 123、 夏休みすみきつた空に入道雲
 124、 幼い頃見た花火今も心の中
 125、 流星群父と二人で蚊にさされ
 126、 バトンパストラックで走る炎天下
 127、 夏の空きらきら光る夜の星
 128、 晴嵐のヒノキにひびくセミの声

石橋 明歩
 菅沼 悠真
 岡司 新太
 川島 莉愛
 田中 美琴
 坪田 優菜
 名坂 彩心
 中瀬 雄大
 精松 蓮介
 三好 晴貴
 片山 莫
 木村 聖愛
 畑 結凜乃
 大橋 梨央
 安田 智雅
 八木 楽
 寺田 茉央
 村瀬 慶
 戸田 健太郎
 中山 花香
 和田 拓真
 森本 幾翔
 服部 向日葵
 矢部 湊真
 齋藤 優里
 井上 心瑚
 柰田 祐成
 奥井 大智
 中住 渚
 中島 妃菜
 山下 蓮人

1 2 9、祭りの花大きな音たてかれてゆく
 1 3 0、花たちが春風ふれておどりだす
 1 3 1、雨降りになるん顔出す朝顔だ
 1 3 2、夏休み起きたらかにさされてる
 1 3 3、甲子園ビクプレーに歓声だ
 1 3 4、夏祭り夜が明るくにぎやかに
 1 3 5、とんぼさん川で往復なにしている
 1 3 6、美しく真つ赤にそまるもみじの葉
 1 3 7、きれいだなびわ湖に光る花火がね

浅川 荒木 清水 牛丸 森下 國分 溝内 西井 小野

由奈 葉月 蒼真 侑星 康生 彩未 瑠夏 梓乃 新太



【北大路中学校生徒作品】 令和四年度

【一年】

1	甲子園球児我らの夢の場所	池田 健人	3 2	・夏休み外で走れば熱中症	藤澤 拓磨
2	夏の夜はかなく消える線香花火	稲葉 あまね	3 3	・夏の風風鈴の音が鳴り響く	小島 萌愛
3	ネット前サーブ一本おもいきり	川井 梨央奈	3 4	・せんぷうき手の平にぎる帰り道	将野 純輝
4	茅葺の庵に響く森の声	今里 遙希	3 5	・夏休み宿題全部やりきるぞ	井本 心結
5	最後までエース投げ抜く甲子園	大久保 憲伸	3 6	・夏休み午前は勉強午後ゲーム	伊達 光絆
6	高台で家族みんなで見える花火	岡本 理莉子	3 7	・幻住庵階段のぼつていい景色	黒田 穂々佳
7	大暑昼人影多し河川敷	奥迫 琉我	3 8	・夏の日には昼はサッカー夜祭り	木村 駿斗
8	辛い時全校みんな助け合い	尾崎 真優	3 9	・友達ひさしぶりに会える石山夜市	鍋島 彩汰
9	風薫る風鈴響く夏の夜	河井 悠成	4 0	・日の光たつぷり浴びたトマトもぐ	柏木 七葵
10	夏季総体努力の結果にじみ出る	河原 綾音	4 1	・夏季総体勝つために努力する	阿部 珠貴
11	一年ぶり友が夜市に帰省かな	北村 啓太	4 2	・夏休み白熱するよ甲子園	初田 功規
12	かき氷まずは一口夏の味	小池 優菜	4 3	・風鈴が鳴りやまない夏祭り	赤堀 世波
13	漆黒にかがやきわたる大花火	武田 一慶	4 4	・テスト前シャーペン右手アイス左手	浅川 瞬生
14	ありがとう思い出残るグラウンド	田中 乙葉	4 5	・夏休みみなにかざられる課題達	三原 量子
15	夏祭り心がおどる初夏の夏	夏見 怜奈	4 6	・せみの声窓あければ響きわたる	高島 ころこ
16	木漏れ日の差し込むかげで一休み	萩原 真鷹	4 7	・夏祭りみんなで楽しく花火見る	吉岡 優希
17	夜の空くらやみに散る花火かな	馬場 一真	4 8	・夏休み夜市楽しむ友達と	山藤 美音
18	汗にじむ熱い戦い甲子園	平田 大輔	4 9	・ゴミ問題小さな努力の積み重ね	吉岡 輝一
19	風鈴がきれいに鳴って夏が来た	藤崎 瑛大	5 0	・八月末夏が終わると秋が来る	矢野 匠真
20	仲間達汗と涙の夏季総体	本多 由梨弥	5 1	・ゲームして宿題の存在忘れてた	岡田 麻央
21	甲子園汗と涙が強くする	南村 巧	5 2	・夏休み終わりが見える最後の日	大塚 海土
22	三年振り人がたくさん夏祭り	目片 奏佑	5 3	・真夏に冷たい宝石取り合いだ	宇仁 拓己
23	おおつにはいいうみいっぱいすごいんだ	福丸 泰輔	5 4	・夏休みプールに入って気持ちいな	上田 陽愛
24	行く夏やセミの声きくものがなし	堀江 宇宙	5 5	・終わらない課題を応援せみの声	井田 瑞希
25	松尾芭蕉は俳句を作った天才だ	竹内 徠牙	5 6	・山の中ぼつんとお寺自然だな	和泉 夢姫
26	夏休み課題終わらず最終日	久野 颯悟	5 7	・笑顔咲く三年ぶりの夏祭り	飯原 輝明
27	数学を算数と言う初の春	三浦 一哲	5 8	・炎天下部活のうちこむ夏休み	中道 勝太
28	風鈴が風につられて踊ってる	寺山 陸斗	5 9	・夏の夜ホタルの川がでかあがる	中道 希愛
29	風鈴は夏の風に吹かれきれいだな	永喜 望愛	6 0	・だしきったサイレン響く甲子園	清水 翔太
30	聞こえてくる蝉の合唱夏の歌	北田 優	6 1	・蝉しぐれ終われど宿題まだ終わらん	平井 陸翔
31	夏季総体先輩最後のはれぶたい	加藤 涼菜	6 2	・夏の声セミのおとずれしらしめる	四宮 光之助

65 ・金魚すくい一枚の薄い紙でつり上げる
 66 ・雨が降り上がれば虹が顔を出す
 67 ・安全でとてもしずかなこの町で
 68 ・浴衣着で友達と行く夏祭り
 69 ・三年生引退して悲しいな
 70 ・夏休み目覚し止めて二度ねする
 71 ・夏の朝目覚しの代わりセミの声
 72 ・はりきってプールに飛び込み足強打
 73 ・剣道部気合の声が響く夏
 74 ・甲子園快音響くホームラン
 75 ・夏休みせみの声が一段ます
 76 ・涼しさを求めて集うせんぷうき
 77 ・夏季総体次の代へのバトンパス
 78 ・夏の夜火花が夜空にさいている
 79 ・外遊び熱中しすぎて熱中症
 80 ・夏はセミお盆すぎると秋の声
 81 ・真つ白だ霧で見えない伊吹山
 82 ・宿題をギリギリでやる危いよ
 83 ・夏休み目覚しがわりに蝉の声
 84 ・夏休み課題多くてやる気ない
 85 ・昼日中向日葵畑と入道雲
 86 ・夏休み友達と遊んで楽しいわ
 87 ・楽しさは火花とともに舞い上がる
 88 ・勉強部屋クーラーこわれ地獄部屋
 89 ・大空に火花がドカーン花ばたけ
 90 ・うれしいいなつやすみは水あそび
 91 ・夏休みいろいろあっておもしろい
 92 ・もも色の桜は春を知らせるよ
 93 ・夏の夜夜市に行つて楽しいな
 94 ・昼日中小さなおひさま見つけたよ

目片 結愛
 吉田 花奏
 記名なし
 木下 優輝
 寺田 源
 伊藤 ゆめみ
 大竹野 旬助
 岡田 圭祐
 緒方 裕希人
 岡本 航
 奥迫 煌我
 梶原 真帆
 加藤 杏菜
 川幡 れもん
 鯉迫 蒼多
 竹内 慶
 只野 隼琉
 伊達 天絆
 徳谷 春
 直一 陸
 西村 穂乃花
 村雲 俊介
 山中 梨乃
 横道 春花
 辻 夏鈴
 尾崎 英士
 田中 悠太郎
 日比野 楓加
 金澤 聡太
 松田 芽吹

95 ・夏の雨外見て思う色が無い【二年】
 96 ・汗かいて水をひとくち生き返る
 97 ・夏の日にセミの鳴き声暑さます
 98 ・ありがとう守つてくれるパトロール
 99 ・目の前のゴール目指して全力ダッシュ
 100 ・思い出す春のひとつとき風により
 101 ・芭蕉からあなたへ渡すおくりもの
 102 ・夏はねすずしい風が大切だ
 103 ・透き通る淡い木漏れ日抱きしめる
 104 ・夏の夜火花が上がるきれいだな
 105 ・白球と歓声飛び交う夏の空
 106 ・アブラゼミ声きくだけで暑くなる
 107 ・暑い夏ねこも暑くて夏バテだ
 108 ・昼下がり夢見ごちとセミの声
 109 ・夏祭り笑顔の思い出友達と
 110 ・暑さより厚い気持ちで立ち向かう
 111 ・扇風機こつち向いてと願う僕
 112 ・ふうりんが音を鳴らすと夏が来る
 113 ・梅雨あけの晴ればれとした夏の空
 114 ・夏の夜すずの音がすずしいな
 115 ・セミの声夏の始まりスタートだ
 116 ・夏休み明日はやるぞ宿題を
 117 ・秋近しヒグラシがなく夏の夕方
 118 ・セミの声市民プールの浅葱色
 119 ・夏祭り静かな町を盛り上げる
 120 ・湖西線湖面に映る夏の山
 121 ・夏の空どの時間でも美しい
 122 ・友達とそろえてゆかた夏祭り
 123 ・湖水欲いとこと戯れ夏すぎし
 124 ・夏の音私はここだと蝉の声
 125 ・夏の日の夜の川の上蛍光る
 126 ・セミが鳴く真夏の暑さひきたてる
 127 ・風が吹き夏を感じる風鈴の音

安食 桜子
 井垣 陽
 石嶋 向日葵
 伊藤 蕾花
 梅原 大剛
 枝 龍之介
 奥野 菜都
 片山 颯
 金山 琉奈
 草野 翔太
 田頭 翔太
 田中 杏樹
 田中 裡子
 谷口 堅信
 内藤 李実
 長澤 葉月
 中瀬 太一
 萩原 満桜
 橋口 風花
 橋倉 圭人
 林 蒼空
 藤田 泰聖
 森田 仁
 山上 凜星
 吉田 絢音
 若松 幸征
 鷺田 将徳
 阿部 姫花
 石崎 優琥
 大西 澄伶
 小川 陸太
 柏山 侑宇我
 片木 絢香

128・夏休みあつい空の下でおおさわぎ
 129・夏休み運動しなくてうごけない
 130・夏休みバトンをつないでリレー練
 131・お盆の日庭に来た鳩亡き祖父かな
 132・夏休み好きなこととして楽しもう
 133・静寂の夜を彩る花火かな
 134・炎天下日影でほおぼる風物詩
 135・日傘さす影がない道急ぎ足
 136・きらきらと夜空が笑う夏休み
 137・甲子園みんなが目指す夢舞台
 138・水しぶき波に揺られて虹色に
 139・ベンチ前飛び出す準備緊張感
 140・耳のそばプーンと横切る夏の虫
 141・ミンミンとせみの鳴き声目覚まし時計
 142・幻住庵自然豊かなみどりだな
 143・暑い中水の音きくだけでずいいな
 144・ジリジリと燃える日差しに涼しい風
 145・夏の声セミの鳴き声波の音
 146・しがのうみ夕焼けもえて汚れが目立つ
 147・部活動太陽の下で猛練習
 148・夏の夜空のホタル綺麗かな
 149・暑くてもサイダー飲んだらすずしいな
 150・毎日を暑さと戦う夏休み
 151・夜の森季節感じるセミの声
 152・夏休み楽しいことがたくさんある
 153・夏の空熱風吹かせて秋を呼ぶ
 154・空白の時も彩る夏の花
 155・夢のせて未来へ羽ばたけ巢立鳥
 156・ふらの旅メロンにアイスに食べまくり
 157・汗流す夏の練習つらいよな
 158・人に会う「おはようございます」大切な言葉
 159・涼しい夜やにわに落ちた小さな花火
 160・天の川街の明りで見えにくい

川上 龍仁
 杉原 皓介
 古高 雛
 小谷 優斗
 佐脇 瑠南
 高杉 一花
 高瀬 煌界
 武内 夢果
 竹本 奈津紀
 徳田 輝人
 西澤 美優
 西堀 陽翔
 野中 葉明
 濱瀬 うた
 原田 千妃
 松井 心那
 三田村 悠生
 宮本 閃多
 守屋 希一
 山下 莉愛
 山本 脩生
 辰巳 琴音
 秋森 隼河
 石橋 悠太
 植田 乃愛
 大貫 晴登
 雑賀 夢乃
 澤田 莉緒
 妹尾 みらの
 曾根 悠大
 大道 凜
 辻本 彩乃
 坪田 未夢

161・梅雨明けて葉先に滴る一雫
 162・石餅と抹茶と小豆のかき氷
 163・夏祭りかき氷食べて頭キーン
 164・夏の夜外で楽しく夏祭り
 165・木漏れ日が足元照らす初夏の森
 166・きょうだい仲良く遊ぶ琵琶湖浴
 167・夏の夜花火の音でいやされる
 168・夏の朝朝から鳴くはセミの声
 169・梅雨明けアツイ夏への大きな一歩
 170・手洗いとうがいをしよう大切だ
 171・風鈴の音色に誘われ夏が来る
 172・夏の夜夜空に光る花火かな
 173・せみの声朝から元気で目が覚める
 174・手のひらに線香花火の花が咲く
 175・夏の夜セミの鳴き声子守唄
 176・夏休みがをせぬよう気をつけよう
 177・気づいたらとけてしまったかき氷
 178・暑い日におまたせとくる夏の風
 179・ふるえあがる湖水浴の後お風呂へ
 180・友達と真剣勝負だ線香花火
 181・ああ涼し木々が揺れる風が立つ
 182・楽しんだ夏の催し三年ぶり
 183・夏の夜雲からのぞく月光や
 184・夏祭り浴衣姿で夏らしく
 185・終わらない増えたと感じる夏の課題
 186・夏の夜虫の音ひびく月明り
 187・みんなだね毎日コツコツゴミ拾い
 188・巡る雲青一面をさらけだし
 189・木漏れ日のスポットライト蝉照らす
 190・通り雨やさしい雲が怒ってる
 191・ただいまと同時に鳴る音はひぐらしの
 192・夏の朝鳥の鳴く声気持ち良い
 193・クレイニしようポイ捨てやめようみんなでさ

藤堂 妃那
 西村 兼
 根角 虎寿
 初田 結音
 松田 隼
 六車 陸人
 村山 礼
 目片 鳳舞
 山根 美音
 安食 薫子
 池田 涼音
 和泉 星凱
 伊藤 有咲
 井上 慎太郎
 岡 航汰朗
 川名 陽輝
 木下 美空
 久米 椋太
 小森 百華
 杉浦 茉那
 竹内 真優
 谷井 駿
 寺西 萌衣
 中井 莉香
 中村 優斗
 西村 遥
 藤井 瑠千
 外薮 由菜
 松原 新
 松本 陽路人
 三浦 結
 道添 悠吾
 宮島 大空

194・水風船割れて飛びちる日のしづく
 195・向日葵のその身構えに胸打たれ
 196・汗をかく白紙の課題明日提出
 297・風鈴がりんと鳴って汗がひく
 298・夏休み虫をいっぴいとりたいな
 299・バーベキューいとことすごし夏すぎる
 200・伊吹山濃霧立ち込め悲しみや

【三年】

201・雨が降りしたたる音と梅雨来たる
 202・懐かしむ稲穂がそよぐ故郷の田
 203・夏祭り人混みの中は絶景だ
 204・夏休み寝るのが遅い寝不足だ
 205・ふと香る思ふ故郷夏至夜風
 206・夏の朝昼とはちがうその風は
 207・公園で聞こえる声はセミの声
 208・時が過ぎ聞こえなくなるセミの声
 209・田舎道輝やく稲みて秋近し
 210・夏の夜火の花びら舞い上がる
 211・夏祭り屋台がいっぱい楽しいな
 212・暗い川明かりをともし螢たち
 213・セミの音一人の家にひびきわたる
 214・部屋前見上げる空に夏雲よ
 215・涼風が肌にふれるや秋近し
 216・夏の夕涼しい風が心地良い
 217・焼けた肌頑張っている証拠です
 218・炎昼の中にこっそり鈴の音
 219・まつ青な空を見上げて夏終わる
 220・うぐいすの鳴く声届け遠くまで
 221・えんがわで庭の葉集め落ち葉焼き
 222・風が来て涼しくなって遊ぶ日々
 223・夏の夜キラキラ光る花が咲く
 224・夕暮れの琵琶湖を走る夏の波
 225・夏休み水分取らず熱中症

山田 紗愛
 吉田 悠惟
 目片 琢磨
 井深 弘将
 大江 菜奈
 青山 稟希
 山口 未結
 青山 陽向
 稲岡 もも音
 小川 のぞみ
 釜谷 駿吾
 楠田 莉野
 嵯峨根 萌加
 櫻井 史悠
 城山 宗士
 辰田 徹平
 立野 大翔
 田邊 愛佳
 筒井 誠志郎
 土肥 瑞季
 中住 颯
 平尾 新
 平岡 真歩
 平澤 光真
 藤井 素羽
 藤澤 佳奈
 堀池 百花
 本郷 夏萌
 松島 郁斗
 南村 生芽
 三原 敬子
 宮本 桜菜

226・氷点下こたつの中で夜過ごす
 227・空見上げひときわ輝くオリオン座
 228・夏休み俳句の宿題ひとつくろう
 229・水あそび笑顔きらめく子どもたち
 230・グラウンド滲む涙にかかる虹
 231・青い空我つき抜ける夏疾風
 232・夏休み課題におわれあそべない
 233・帰り道夕焼けみたらいやされる
 234・夏祭り慣れない下駄とばんそこう
 235・試合前緊張ほぐす話し合い
 236・青空へ歌えよ歌う風鈴が
 237・お盆の日予定立てては達成せず
 238・天高くのびよひまわり我共に
 239・甲子園白球高く泥臭く
 240・黄金虫もがく姿に夢わたし
 241・終わらない課題みつめてせみしぐれ
 242・眠れないバットを振る僕熱帯夜
 243・暑すぎてアイスがとけて汚れる手
 244・雨水が菜の花一輪落ちにけり
 245・夏終わり水だけ残る金魚鉢
 246・ベランダで遠くから見える花火見る
 247・夏休み涼しい風がふきかける
 248・白球が空に高々炎天下
 249・浴衣着てゆれるにおいに足痛む
 250・炎天下カキンとひびくさあ走れ
 251・一人見た無音の花火先想う
 252・夏近し予定でうまるカレンダー
 253・夏休み受験生は楽しくない
 254・夏休み塩素のにおいの帰り道
 255・ねむれないずっとなってる虫のこえ
 256・おいしいねみんんで食べるよるごはん
 257・雨上がり川にかかった虹の橋

渡辺 紗英
 佐脇 杏南
 竹内 冴斗
 野間 雪花
 渡邊 心
 浅川 耀生
 安楽 宝児
 石川 南々子
 井上 珂奈子
 岩岡 舞武
 大岡 優太
 大窪 玲輝
 太田 明登
 尾崎 雄介
 垣内 結梨奈
 北宅 美穂子
 木下 大地
 佐井 和
 田中 陽菜
 津田 康太
 中西 奈菜
 納富 大空
 馬場 琉乃介
 日生下 柚羽
 藤井 一千香
 堀池 晴
 増田 凜々
 榎本 蓉央
 宮越 花南
 椋木 まりあ
 八木 杏那
 山倉 未優

- 258・セミの声と競い合い鳴る鳴るゲーム音
- 259・冬の朝光り輝く雪景色
- 260・星月夜今日は終戦記念日か
- 261・炎天下新緑の庭休暇果つ
- 262・青い夏流れ出るのは汗と涙
- 263・ひさびさに会って見てみる浴衣姿
- 264・汗流し氷菓を一口体冷え
- 265・かき氷いつの間にやら色水に
- 266・夏の空星が一番かがやく日
- 267・夏近し友といっしょにはなしする
- 268・雪催い公園前でバス掃除
- 269・火花咲く夜空に向けてのおくりもの
- 270・そうめん緑のそうめん入ってる
- 271・夏祭り3年ぶりの金魚すくい
- 272・炎天下強さで魅せる僕たちだ
- 273・朝になり夢から覚めたら蝉の声
- 274・青空に耳をすませばセミの声
- 275・氷水飲むより今はおでこかな
- 276・夏来る聞こえてくるはせみの声
- 277・瑠璃色の広い夏空癒される
- 278・白球に夢を掲げる甲子園
- 279・風そよぐせみ鳴り響く今宵の夏
- 280・朱滴や儂なく落つる休暇果つ
- 281・星空が方程式に見える夏
- 282・夏休み気づけば明日登校日
- 283・爆弾のような花火空彩る
- 284・夏至の時気分も同じ最高潮
- 285・待ち合わせ浴衣すがたの君がいて
- 286・岩の上で飛び込みしたら夏の始まり

国松	由希菜	河上	光吏	中野	千鶴	和田	泰凱	穂田	智子	安藤	千紘	植田	涼音	大塚	玲	近江	叶咲	奥	琴羽	加藤	要一郎	小茂田	莉愛	紺田	響	佐々木	澁久	篠原	澁晴	角	庵吏	高木	優有輔	中野	菜々子	永芳	茜	名越	來海	夏見	翔太	橋野	葵唯	橋本	裕貴	林	航汰	前川	心春	松井	滯夏	丸山	頼人	三田村	康生	宮本	七星
----	-----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	---	----	----	---	----	----	-----	-----	----	----	---	-----	----	----	----	---	----	----	-----	----	-----	----	---	----	----	----	----	----	----	----	----	---	----	----	----	----	----	----	----	-----	----	----	----

287・コンビニの氷菓片手に陰の中	矢野	悠真
288・暑い日に風にたなびく夏休み	山口	歩
289・塾だらけ予定表連れ夏来る	山田	楓花
290・たんぼみち行っても行ってもあきないな	山中	星衣
291・雪の中月夜見上げる冬の星	西山	芽璃
292・夏野菜水々しくておいしいよ	日高	望歩
293・さんま置き尾を立て喜ぶ猫の顔	奥田	陽貴
294・夏祭り彼氏とデートあこがれる	辻	結稀菜
295・にげられたせつかくどつたダメメンが	内山	晴貴
296・アズキパーカチカチすぎがおいしくて	福丸	修治
297・夏季総体染め付く汗のユニフォーム	松岡	虹華
298・赤いバツ青いバツみて夏来る	岡垣	洗希
299・弟にゲームを教わる夏休み	高橋	和太郎
300・夏休み豊かな自然楽しいな	永喜	陽翔

投句者数 小学校156人 中学校 300人 合計456人



【選者感想】

(大津市俳句連盟 七里 源一)

第八十九回幻住庵芭蕉祭少年の俳句優秀作品を選定しての感想を述べます。

原則として、俳句の基本である五・七・五の音数に合った俳句であること。作品の内容が明朗快活で前向きであること。

発想がユニークで、それぞれの一句に作者の発見があること。

駅前の松尾芭蕉像をみて「熱中症」であるとする一句などは、それに該当すると思います。

今回選ばれた皆さんの俳句は、一人一人が素直な気持ちで、ことばを選び読み手の心を打つものであると思います。

(現代俳句協会 増田 天志)

日常のちよつとしたこと、また、自然の美しさ、さまざまな季節の行事。どんなことでもかまいません。感動したこと、発見したこと、楽しかったこと、さみしかったこと。日記を書くように、俳句にしてください。自分にか、書けないことを、そつと、俳句にしてください。むずかしいことを、書く必要は、ありません。

俳句を、楽しんでもらいたいです。もっと、自由に、いろんなことを、俳句にして欲しいのです。自分のことを表現することは、はずかしいことではありません。

写生で自然をえがくこともありますね。俳句は、言葉で、自然を、写生するので。

入選作品を読んでみてください。自由自在に、自分の言葉で、自分にしか書けないことを、俳句にしていますね。入選者は、この調子で、来年も、入選をねらってください。作品を、待っていますよ。投句ありがとうございます。

(日本伝統俳句協会 尾崎 恵子)

小学校・中学校。それぞれの力作を拝読し、改めて「俳句」のすばらしさを感じました。「五・七・五」に込められた動作や思いやり、心の表現に思わず立ち止まり何度も吟じておりました。

未来ある小学生・中学生の皆様の選句はとても心が、痛みました。俳句に親しむ事により、より輝かしい素晴らしい将来になります事を心よりお祈り致しております。

(幻住庵翠微句会 小菅 信一)

コロナも下火になり普段の生活が戻ってきました。中止されていたイベントも今まで通り行われるようになり当、幻住庵芭蕉祭も以前通り行われることは嬉しい事です。拝見した作品からもイベントやクラブ活動を詠んだ作品が多くあり、暗い作品が無くなったのは嬉しい事です。又、どの作品も学生らしい感覚で詠まれており楽しく読ませて頂きましたが、今年も俳句の基⁹本から外れた作品もあり今後の課題になります。俳句は五、七、五に季語を一つ入れる。これが基本になります。これを踏まえて来年はどの様な作品が詠まれるか楽しみにしています。

(幻住庵保勝会 馬場 民代)

小学校六年生から中学三年生までという、多感な時期に居られる皆様の瑞々しい句群に接し、心弾む一時でした。

晴嵐小六年さんの句には、詠もうとするテーマの着想、俳句の本来である平明な表現で味わい深いものという理に叶った、正統句が多く好もしく感じました。北大路中学生さんの句群には、年長さんらしく語彙数が可成り増え、故に表現域の広がる秀句が多く、敬服致しました。只、小学生、中学生さん双方に感じましたことは、類想類句、季重なり(季語が二つ以上)が多いかなど。今後は更に、身辺^{みへん}りへ眼と心を懲らし、自ずと感性が練磨されるような日常であればと思います。

